

# ゆたかな労働と 生活の場をめざして

発行. 社会福祉法人ときわ会

〒187-0032 小平市小川町 2-1159 番地  
URL <http://www.asayake.or.jp>

あさやけ  
だより  
No. 508

あさやけ作業所	小平市小川町 2-1159 番地	TEL 042-345-4575
あさやけ第二作業所	小平市小川町 2-1159 番地	TEL 042-345-1564
サングリーン	小平市小川町 1-943 番地	TEL 042-345-1585
あさやけ鷹の台作業所	小平市小川町 1-411 番地	TEL 042-346-2167
共同ホームつくしんぼ	小平市小川町 1-944-30 番地	TEL 042-342-7550
共同ホームこげら	小平市上水南町 2-21-17 番地	TEL 042-325-8716
共同ホームサンライズ	小平市小川東町 5-2-11 番地	TEL 042-346-0472
あさやけ喜平橋食堂	小平市上水南町 2-23-21-5	TEL 042-312-0793
地域生活支援センターあさやけ	小平市小川東町 4-2-1 番地	TEL 042-345-1741
共同ホーム一歩	小平市花小金井 7-2-24 番地	TEL 042-349-0305
あさやけ風の作業所	小平市中島町 3-8 番地	TEL 042-349-2366
共同ホームはやぶさ	小平市小川町 1-497-13 番地	TEL 042-313-6269
共同ホームさらさ	小平市小川東町 5-2-12-1 番地	TEL 042-313-2217



学生さんと灯笼作り

## 介護体験

あさやけ風の作業所



佐藤 節子さん  
(サングリーン)

まだまだ若々しい頑張り屋さん

仲間紹介

ひとりひとりが太陽



「みんな、おはよう！元気？私もいつも元気だよ！」といつも元気に大きな声で来るのはサングリーンに居る佐藤節子さん。サングリーンに通ってもう十年以上。市役所の人の紹介で見学に来て、「ここなら働けるし、働きたい！」と思ったのだそうです。来た当初は、ダイレクトメール等の下請け班に所属していましたが、いつしか縫製班のほうで、フキン製作の第一段階である原反折りの作業をやるようになりまし。

最初は折るチカラ加減とかが難しかったけれど、だんだん慣れてきて作業が楽しくなっています。いまは原反折りのスペシャリスト。毎日、二時間程の時間ですが、その短時間で「百枚ぐらい折ったりすることもあるよ！」とのこと。

そんな明るい頑張り屋さんの節子さんですが、実は一年ほど前のある日、夜の暗い時間帯に自転車で走行車と接触してしまい、救急搬送されて入院してしま

「みんな、おはよう！元気？私もいつも元気に大きな声で来るのはサングリーンに居る佐藤節子さん。サングリーンに通ってもう十年以上。市役所の人の紹介で見学に来て、「ここなら働けるし、働きたい！」と思ったのだそうです。来た当初は、ダイレクトメール等の下請け班に所属していましたが、いつしか縫製班のほうで、フキン製作の第一段階である原反折りの作業をやるようになりまし。

最初は折るチカラ加減とかが難しかったけれど、だんだん慣れてきて作業が楽しくなっています。いまは原反折りのスペシャリスト。毎日、二時間程の時間ですが、その短時間で「百枚ぐらい折ったりすることもあるよ！」とのこと。

そんな明るい頑張り屋さんの節子さんですが、実は一年ほど前のある日、夜の暗い時間帯に自転車で走行車と接触してしまい、救急搬送されて入院してしま

七月中旬から八月にかけて、利用者十三名、職員四名がコロナに罹患した。全員が作業所で感染したわけではないが、作業所全体の五割近くが罹患したことになる。特に八月下旬にかけて一気に広がった。週末に発熱したとの連絡で全員のPCR検査をしたところ八人が陽性。その段階で作業所を十日間閉鎖することとした。ただ、閉鎖することで体調を崩す方や服薬や金銭管理が必要な方も何人か半日程度の受け入れはしてきた。

四十度の熱が出たり、持病の悪化を考えて入院措置を取った人もおり、コロナの感染力の強さを思い知った。一方、多くは微熱程度でほとんど症状も出ていない方も多かった。幸いにも、入院になった方も含めて重症化した方はおらず、一安心している。

陽性者が出たグループホームは三か所あり、いずれも非罹患者との共同生活である。ホームでの隔離は家庭以上に大変だと思いつつもお願いした。申し訳ない思いがある。

家族感染が多いことから家族全体に広がり、生活が維持できない状態も想定しつつ連絡してきたが、感染は一部にとどまりこちらも一安心した。

陽性者はやむを得ないと思いつつも、症状の軽い人やそもそも

感染拡大で十日間の作業所閉鎖に  
追い込まれる

あさやけ鷹の台作業所  
施設長 松本 喜和

そもそも罹患していない人にとっては家やホームでの時間を持って余してしまっている方も多かったようで、作業所閉鎖が大きな影響をもたらしてしまった。

日常的には、感染症マニュアルに沿って、マスクの徹底、毎朝の検温と健康観察、室内のアルコール消毒、座席の間隔をとりパーティションを設置等徹底してきたつもりである。ただ、マスクなどは、再三伝えてはいても難しい面もあり、その都度伝えては感染防止を促してきた現状はある。

閉鎖以降、陽性者も含まれた全員の健康確認を毎日してきた。罹患していない方の発熱や症状の発現が、全くないことから作業所閉鎖を七日間にして一部を解除し、健康観察を強化しながら開所することにした。

今回、多くの陽性者を出してしまったことで利用者・家族をはじめ関係機関に多大なご心配をさせてしまったことに謝罪したい。感染の拡大を防止すること、通所をいかに保障するかといったこととの選択を求められてきた毎日である。どこかに手薄なところがあったのか、もつとやるべきことがあったのかと自問している。いずれも作業所内で改めて検討しなおす必要がある。



メンバーさんから様々なお話を聞くことができ、大学内だけでは到底得られないような、貴重な時間を過ごすことが出来ました。そして何より、作業所の皆さんが笑顔で造形活動に参加して下さったことが本当に嬉しかったです。皆さんの素敵な作品に光が当たった瞬間は、きっとずっと心に残っていると思います。(班長:川上珠貴)

元気なメンバーさん達に沢山のパワーをもらい、私達も負けてはいられないと感じました！ワークショップも多くのメンバーさんに楽しく参加していただき、笑顔と元気に溢れる活動になったと思います。(副班長 佐々木里桜)

自分にとって初めての実習をさせていただき、メンバーの方々に作業と美術を通して触れることで揺さぶられることはとても多かったです。そんな中で作業所の「できないことに前向きに取り組む姿勢」はとても勉強になりました。(猪狩日菜)

作業所の5日間は想像していたより大変でしたがそれ以上に楽しかったです。職員さんもメンバーさんも8時半から17時までの限られた時間をそれぞれのペースで充実させていて、素敵で居心地のいい場所だなと感じました。(大西美来)



「うわあー、きれーい。」と思わず声が出たのは、武蔵野美術大学のみなさんと行った造形活動でのこと。あさやけ作業所での介護等体験実習は8月に5日間おこなわれ、造形活動は最終日に行われました。

テーマは「光と影の水族館」最初は学生たちの自己紹介を兼ねた影絵クイズから始まりました。次々と繰り出される影絵に「いぬ」「ねこ」と大きな声で答えていました。さて、今度はメインの魚作りです。みなさん、配布された画材に思い思いに色を塗ったり張り付けたりとやるのが盛りだくさん。何個も画材を使い作品を仕上げていく方や、ひとつひとつじっくり丁寧に色を重ねていく方、作品の表情はさまざまで、まさに十人十色！不思議です。学生たちに話を聞くと予想外の使い方もあり、こんな方法もあったのか！と新たな気づきもあったようです。作品が完成すると、段ボールで作られた海に泳がせました。ライトの効果もあり、引き込まれるような、幻想的な空間になりました。

#### 学生のコメント

- ・みなさんができた作品を手にして嬉しそうなお表情をしていたことがとても嬉しかったです。
- ・メンバーの方にはそれぞれ得意不得意があり、それを対話や交流をもとに学び、ひとりひとりのやりやすいやり方を模索することができました。この体験では自分の視野を広げるいい経験ができました。
- ・一緒に試行錯誤したり、作品を鑑賞して笑顔が生まれたり、美術によって心を通わせることが出来たような実感があり、嬉しかったです。
- ・作った魚を嬉しそうに持って帰ってくれる姿をみて、私自身も美術の持っている力を改めて体感することが出来ました。
- ・障がいのある方と関わるのはほぼ初めてのことで不安でしたが、我々が思いつかないような柔軟な発想でお魚を彩ってくださっているのをみてとても嬉しく思いました。
- ・メンバーさんそれぞれ得意な表現をお持ちだったので、多種多様なお魚が完成し、にぎやかに楽しそうな海を作り上げることができました。



## 武蔵野美術大学生の介護等体験

今年もときわ会では武蔵野美術大学学生さん26名の介護等体験の受け入れを行いました。実は今年は3年ぶりにサマースクールを実施する予定で準備を進めてきましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、直前に中止となってしまいました。そのため、サマースクールで実習するはずであった18名はあさやけ作業所・あさやけ風の作業所・あさやけ鷹の台作業所の通常活動での実習となりました。

この介護等体験ではいつも学生さんたちが企画した美術の創作活動をおこなう交流企画というものがあるのですが、急な変更で戸惑ったことと思います。それは企画の対象がサマースクールで想定していた中学・高校生から作業所を利用している成人に変わったからです。しかし、それぞれのグループで協力し、臨機応変に企画内容を修正することができ、今年もメンバーたちが楽しく参加できる活動となりました。

施設での実習を体験させていただいて、色々な変化を実感しています。例えば初日にお手伝いさせていただいた方はその日の印象ではコミュニケーションの発露が少なめだと感じていたのですが、最終日ではとても表情が豊かで楽しい方なのだなという印象を抱きました。



きっと初日にはその方に対してコミュニケーションがスムーズにいかず、むずがゆい気持ちをたくさん抱かせてしまったと思います。職員さんがどんなことに気をつけながら日々、利用者さんと接していらっしゃるのかということも何度もうかがったり、気づいたことがいくつもありません。特に強く感じたのは、利用者さんが自分で行えることは自分でやらせようなど、自主的な力を重視していらっしゃるのだなということです。これは口に出すのは簡単ですが、実際にそのように行動するのは本当に難しく、根気のいることだと思います。今回の実習は大変貴重な経験となりました。私の妹は軽度の知的障害があるのですが、今回の経験で私の妹への認識、意識も少し変化した気がします。今まで家庭内の個人の問題として捉えていた事柄をあらためて客観的に広い視野で見つめ直すことができました。

(実習生 1さん)

8月に東京都福祉人材センター主催の「フクシを知ろう！おしごと体験」の受け入れを行いました。

残念ながら、新型コロナウイルスの影響を受け、1名の方に参加を見送っていただく運びとなりましたが、小学5年生から中学2年生の計5名さんが、うだるような暑さの中、あさやけ作業所に足を運んでくださいました。

本体験の目的は、小学生、中学生及び高校生を対象として福祉施設での職場体験を実施し、将来の福祉を担う人材である小中高生や、その保護者等の福祉に対する興味・関心を高めることを目的とする。また、福祉人材の裾野（福祉に興味・関心を持つ層）を広げ、福祉人材の安定的な確保につなげる。（東京都福祉人材センターより）こと。

当日は、作業所がどういうところなのか、利用者の方がどういった仕事をしていて、職員はどのように利用者の方々のお手伝いをしているのかについて、実際に下請け作業や縫製作業を通じ、体験していただきました。

「どうしてこの仕事があるのか」「障害のある方のお手伝いをする仕事とは」などのやや難しい問いかけの中で、参加した生徒の方からは、「ともに仕事をしたり、一緒に休憩をしたり、楽しい時間を過ごせて一緒に仕事をしているように感じた」という感想もありました。

2時間弱と短い時間の中での体験でしたが、手伝うという行為を「する、される」という関係性ではなく、純粋に“ともに”、“一緒に”と、“ともに働く”というあさやけ作業所の理念の一部を体感して頂けて喜ばしい限りです。

今回のおしごと体験の受け入れは、あさやけ作業所としても初めての試みでしたが、小中学生の純粋な疑問や、下請け作業を効率よくこなす姿を見て、まだまだ色々な可能性が秘められている、貴重で大切な時期にあるんだと、改めて感じました。

## あさやけ作業所

### フクシを知ろう おしごと体験



職員作成のパンフレット

## 武蔵野美術大学生の介護等体験

### サングリーン

サングリーンの実習初日は納涼祭からのスタートでした。室内を飾る装飾づくりや、ボール投げゲーム、似顔絵描きなどをしていただき、場を盛り上げていただきました。翌日からは縫製の作業、作業、作業…の日々でしたが、少しずつ障害や病気のことを知り、メンバーとの交流を楽しむ場面も増えていきました。最終日の創作活動は、「思い出の心象ウィンドウづくり」でした。最近あった楽しいことや悲しいことなど、エピソードや思い出を色にイメージし、窓にみだてた箱に張り紙で表現するというもの。学生さんとの会話をたのしみながら、それぞれに工夫をこらしたウィンドウができました。最後はすべて重ねてキャンドルを灯し、みんなで鑑賞。普段と異なる制作過程や学生さんからかけられる言葉も素敵で、「面白かった!」「自分が持っている力が現れた!」などの感想がさかれました。

#### 実習した学生からの感想

- ・職員の方々がメンバーさんの生活から業務中までの様子を詳細に把握しサポートをされていることで、サングリーンに来ることはメンバーさんにとって生きる活力であったり大切な日々のリズムになっていると感じました。
- ・ミシンや折りなどできるように工夫してお仕事されていることを学びました。また、職員さんがメンバーさんと向き合ったサポートがとても印象的でした。
- ・就労支援ということであくまでもその人の力を引き出すためのメンバーさんに対する声掛けや、自助具などを使った工夫、サポートの違いなどとても勉強になった。また、造形活動を通して美術と福祉の関わりを考えるきっかけにもなった。
- ・メンバーさんそれぞれに個性があり、得意なこと、苦手なことがあるなかで一つの作業を達成しなければならぬという環境があるにもかかわらず、皆さん黙々と楽しそうに作業されていたのが印象的でした。これは、職員さんがメンバーさんと細かくお話ししたり、どのようにサポートしたらやりやすいか工夫しているからこそ出来上がっている環境であることを知り、とても視野が広がりました。



思い出の心象ウィンドウづくり

## 小平産ブルーベリージャム

いよいよ今年の販売が始まりました。  
 昨年までサングリーンで作っていたブルーベリージャムは、  
 今年からあさやけ喜平橋食堂が作っています。  
 小平産の大粒のブルーベリーがごろごろ入ったとても贅沢なジャムです。  
 ロゴスタンプも手作りでかわいらしくなりました。  
 カフェにたくさんご用意してお待ちしております。



1個 700円

問合せ先/あさやけ喜平橋食堂 小平市上水南町 2-23-21-5  
 TEL: 042-312-0793 FAX: 042-312-0794

## あさやけの和ふきん

奈良県産のかや地を使用。レーヨン100%だから自然に還りエコです。  
 8枚重ねだから丈夫で吸収性もバツグン!

1枚 250円



ご注文は、042-345-4575 まで  
 あさやけ作業所で販売しています。  
 小平市内は、5枚以上の注文は無料でお届けします。

■感染防止のため、新聞・雑誌等の回収品は玄関前にお出してください。ご協力をよろしくお願い致します。回収時間は午前9時から12時30分になります。

### 廃品回収のお知らせ

7月の廃品回収の回収量は6,420kgでした。内訳は新聞4,005kg、雑誌・ダンボール2,415kgです。収益は小平市の資源回収補助金も含めて88,520円でした

**次回は10月15日(土)が回収日です。**

雨天の場合は中止とさせていただきます。